



大学入学者選抜におけるCBTの活用の推進に向けた連携協力に関する協定

キックオフシンポジウム 2024. 8. 21

コロナ禍で実施の
オンライン入試を振り返って
—課題と今後への期待—

長 田 厚 樹（神田外語大学 事務局長補佐）

本日の概要

- ・神田外語大学の概要(大学・入試)
- ・オンライン入試導入の経緯
- ・オンライン入試実施体制
- ・本人認証、監視、学力テストのシステムについて
- ・受験者(入学者)アンケートの結果
- ・現状と課題及び今後への期待

神田外語大学概要



- ・1987年 千葉市幕張にて開学
- ・外国語学部、Global Liberal Arts学部の2学部体制
- ・専攻語
英語、中国語、韓国語、インドネシア語、タイ語、
ベトナム語、スペイン語、ブラジルポルトガル語
- ・学部生は約4,000名（女子 7割：男子 3割）
- ・千葉県を中心に自宅通学者 約65%
- * 受験者も約7割が前泊等をせずに、受験できる
範囲に居住している。

入試について(外国語学部 2020年実施)

(総合型選抜等 全面オンライン)

・総合型選抜<前期>

プレゼンテーション、英語テスト、面接

・総合型選抜<後期> 学校推薦型等

英語テスト 及び

(英米語学科) 英語プレゼン、口頭試問、面接

(その他) 小論文、面接

(一般入試 対面学内実施)

・英語(リーディング・リスニング)

・国語

・グループ面接(今回は未実施)

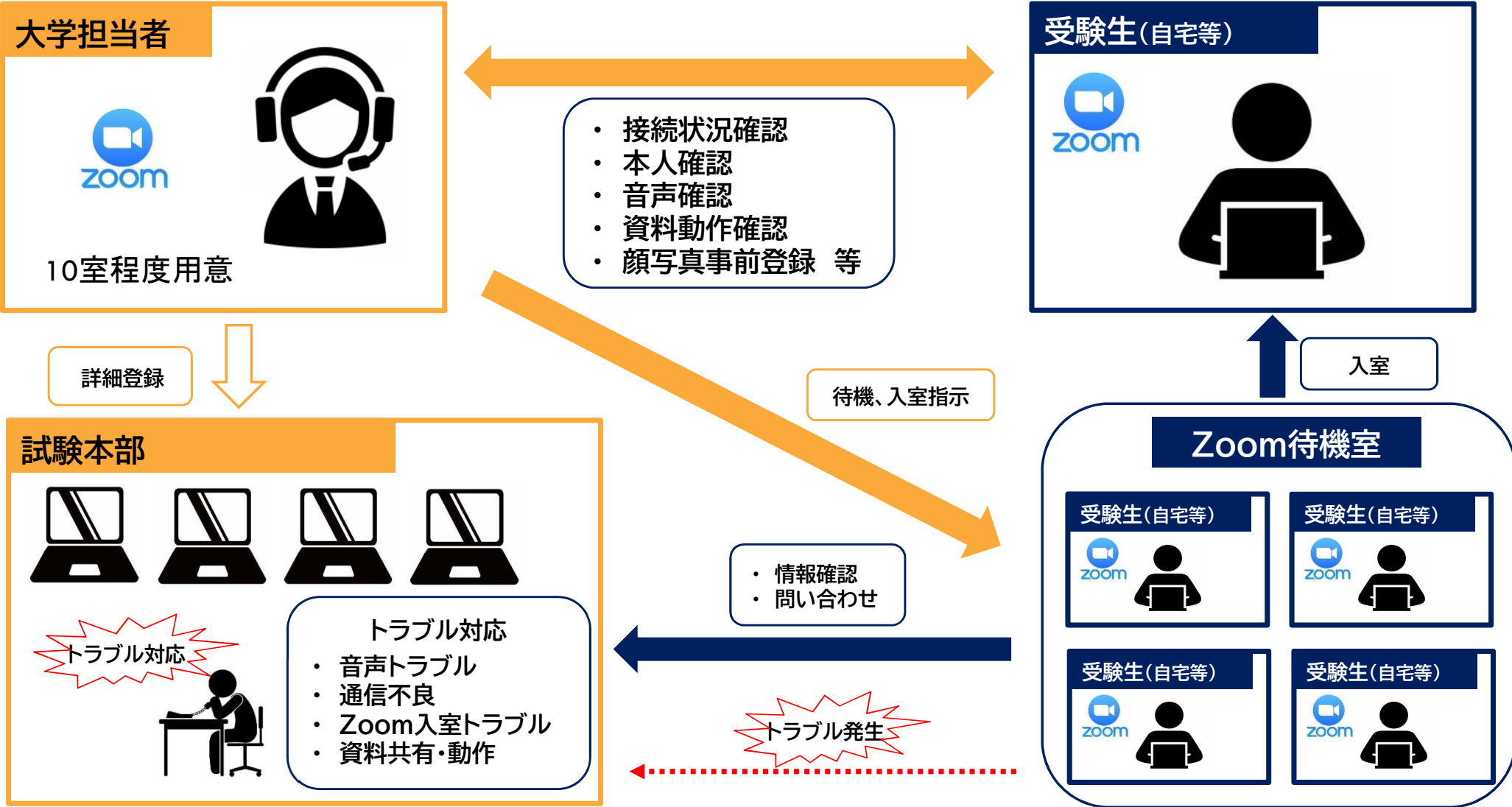
(共通テスト利用入試)

・共通テストの点数 本学試験無し

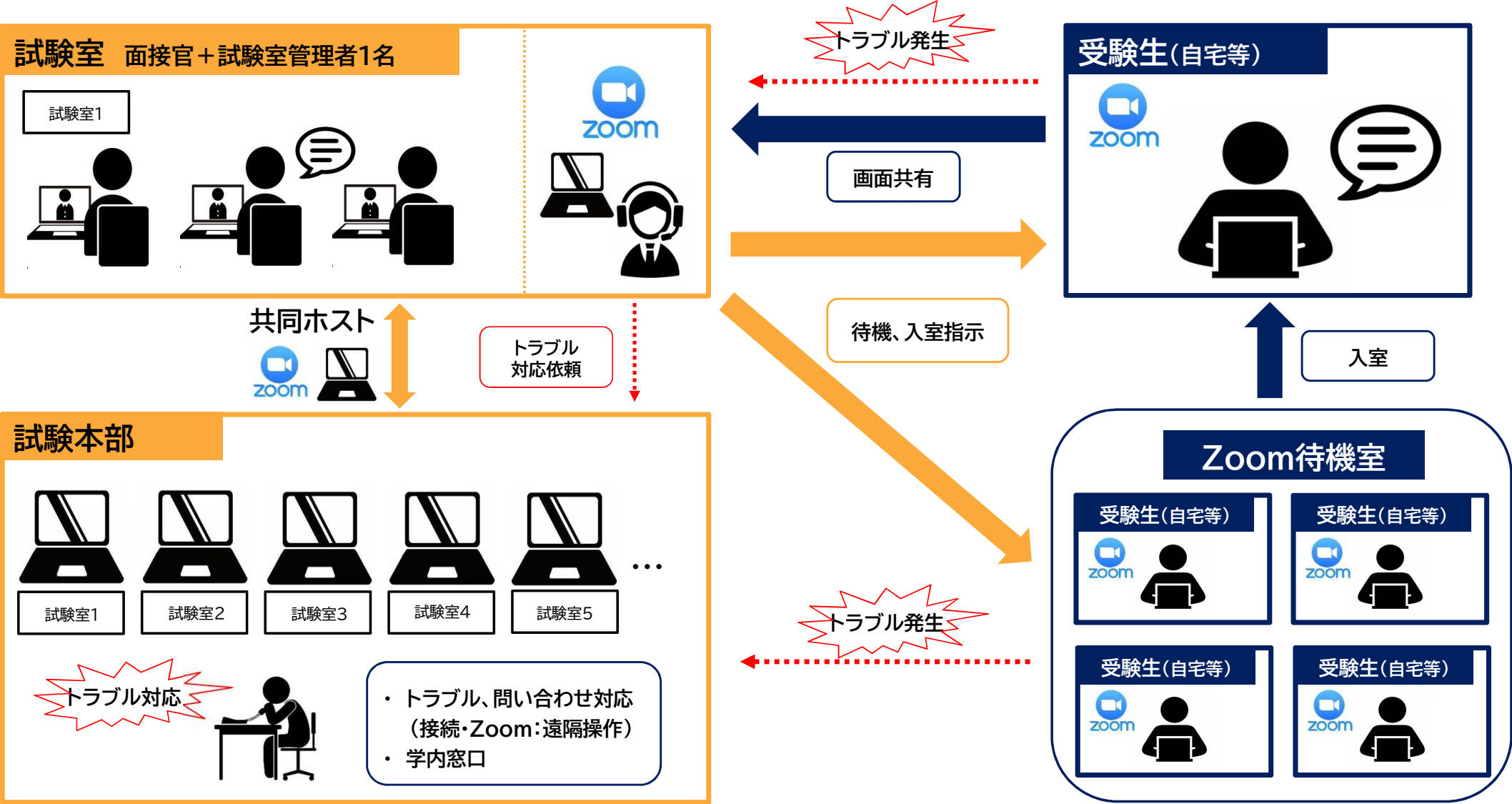
秋入試に於いて全面オンライン実施決定に至る経緯

- ・3月 東京都による不要不急の外出自粛要請発出
- ・4月 7日、首都圏等に一回目の緊急事態宣言が発出、
16日には全国に拡大
- ・4月中旬 事務局入試担当で秋入試の実施方法について検討開始
大学の授業はGW明けから全面オンラインで開始
- ・6月 入試委員会にて秋入試を全面オンラインで実施することを提案
1) 公平・公正が担保できるか
2) 受験生の実力が発揮・反映できるか
3) 高等学校及び保護者への説明
- ・7月 入試委員会・教授会で全面オンライン実施を承認 HPで発表

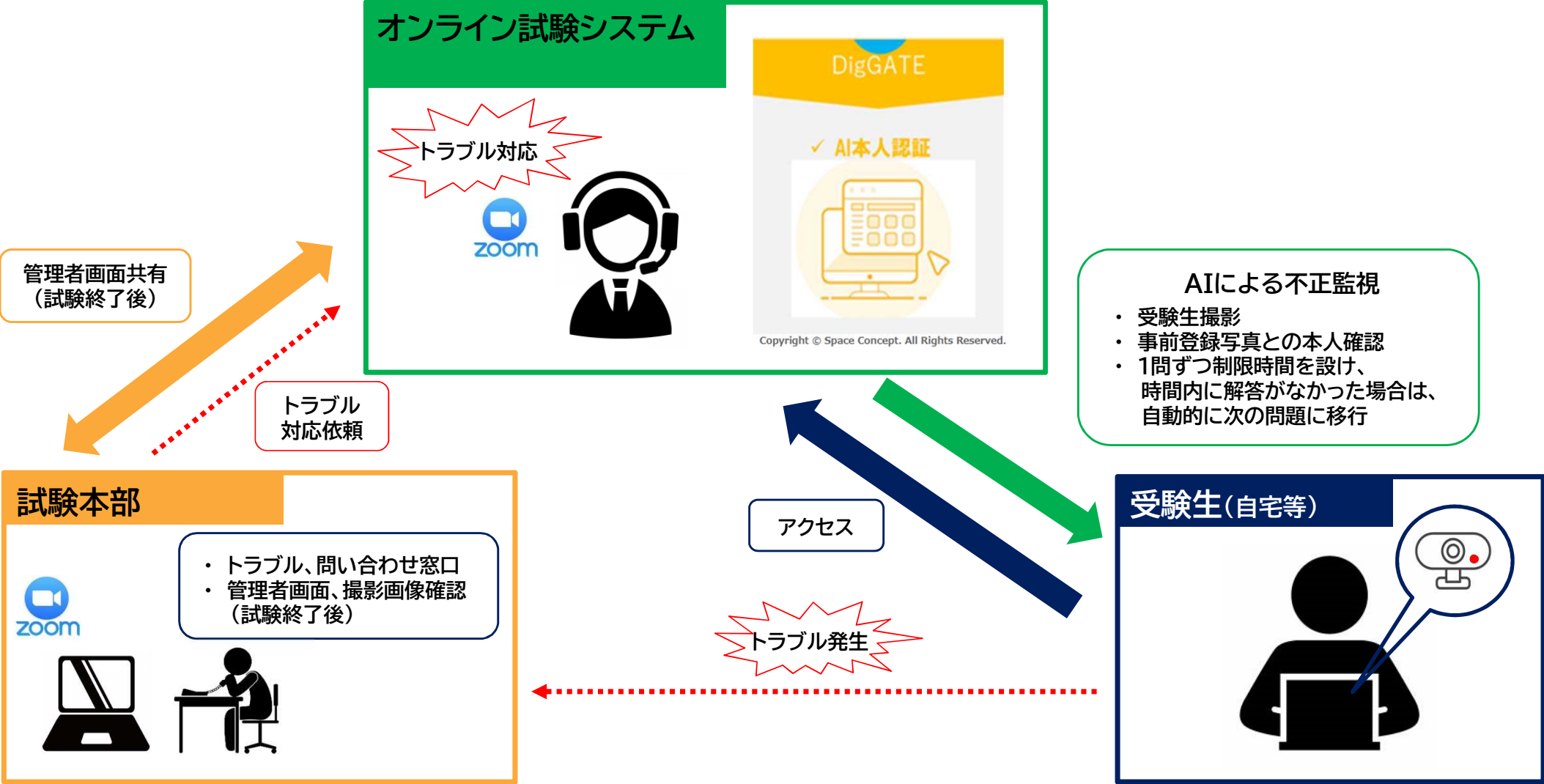
面接・口頭試問・プレゼンテーション **〈事前接続テスト〉放課後・週末**



面接・口頭試問プレゼンテーション〈運営体制〉



英語テスト 〈運営体制〉



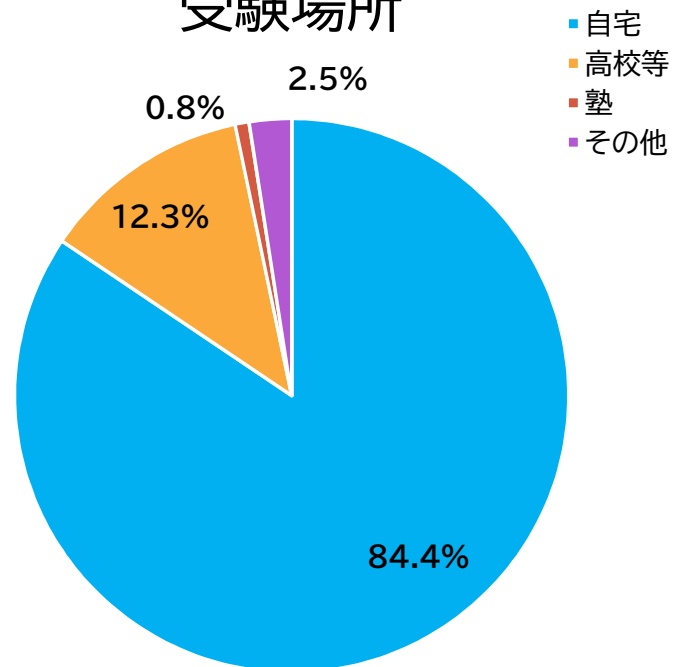
受験環境(1)

受験者(入学者)アンケート結果(回収率55%)

受験場所(都道府県・国)

都道府県	割合	都道府県	割合
千葉県	41.8%	北海道	0.8%
東京都	10.7%	青森県	0.8%
埼玉県	7.8%	山形県	0.8%
茨城県	5.7%	沖縄県	0.8%
神奈川県	4.9%	長野県	0.8%
栃木県	3.3%	愛知県	0.4%
福島県	2.9%	鹿児島県	0.4%
宮城県	2.9%	愛媛県	0.4%
新潟県	2.5%	富山県	0.4%
岩手県	2.5%	岐阜県	0.4%
山梨県	1.6%	岡山県	0.4%
静岡県	1.6%	滋賀県	0.4%
群馬県	1.6%	国外(NZ)	0.4%
秋田県	1.2%	未回答	0.4%
大阪府	1.2%		

受験場所



<その他>
 ・ホームステイ先(ニュージーランド)
 ・ネット環境が良い個室の施設
 ・知人の家
 ・親戚の家
 ・ビジネスホテル
 ・貸切で塾

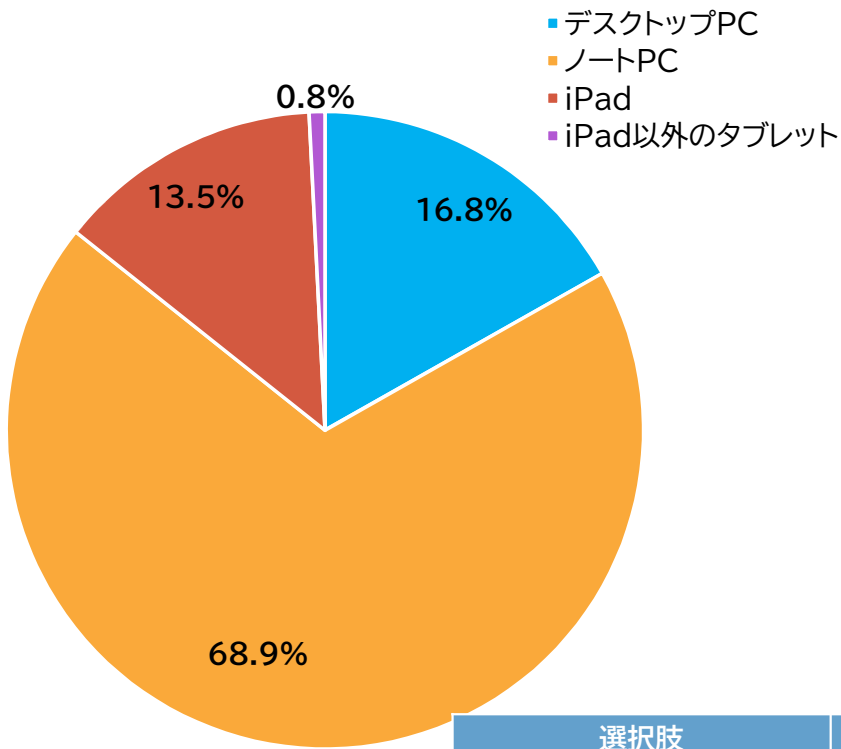
1都3県

千葉県 東京都 埼玉県 神奈川県	過去3年平均	2021
	71.1%	67.6%
43道府県	28.9%	32.4%

増加

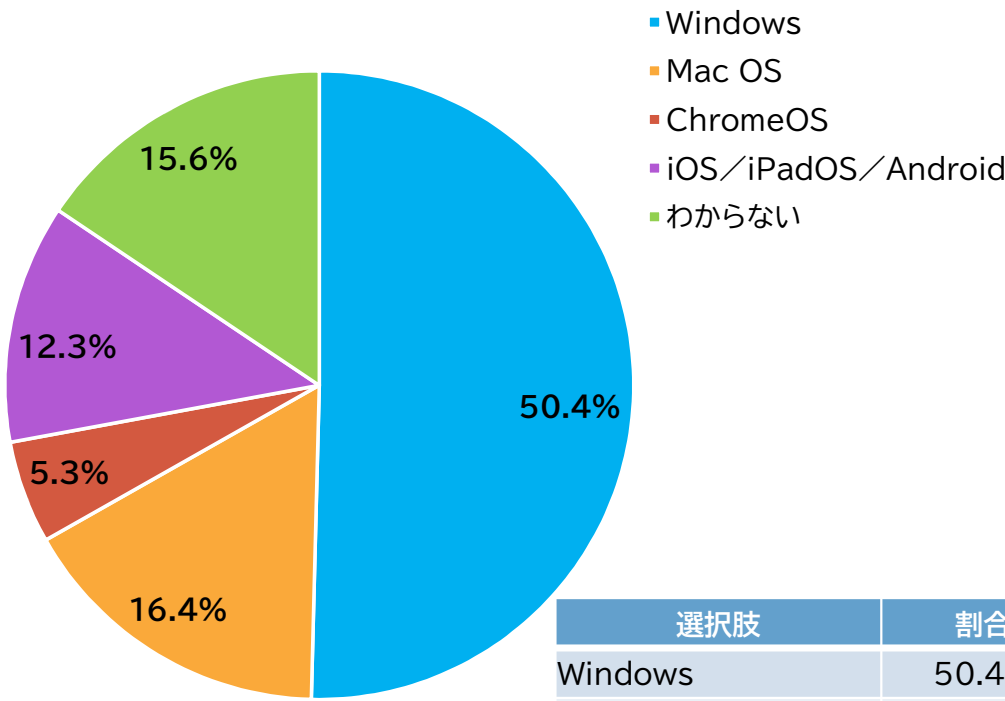
受験環境(2)

使用デバイス



選択肢	割合
デスクトップPC	16.8%
ノートPC	68.9%
iPad	13.5%
iPad以外のタブレット	0.8%

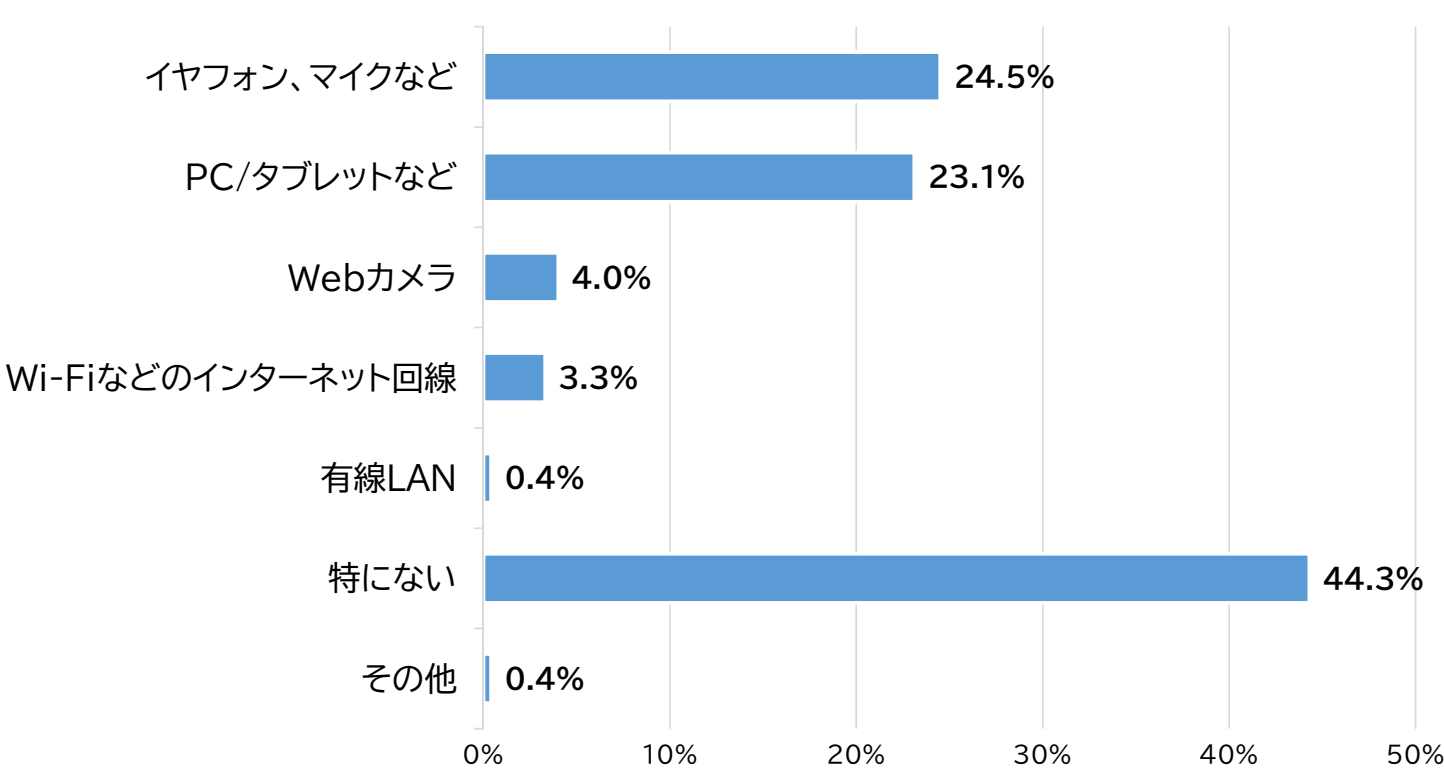
使用OS



選択肢	割合
Windows	50.4%
Mac OS	16.4%
Chrome OS	5.3%
iOS/iPad OS/Android	12.3%
わからない	15.6%

受験環境(3)

オンライン試験のために、新たに購入(契約)したもの



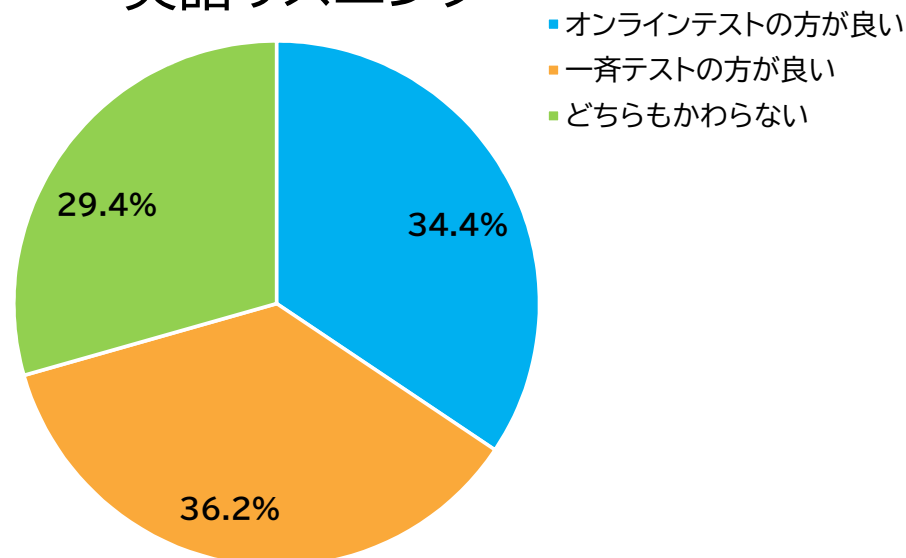
選択肢	割合
イヤフォン、マイクなど	24.5%
PC/タブレットなど	23.1%
Webカメラ	4.0%
Wi-Fiなどのインターネット回線	3.3%
有線LAN	0.4%
特にない	44.3%
その他	0.4%

<その他>
Bluetooth接続が出来るiPad用キーボード

オンラインでの試験内容について

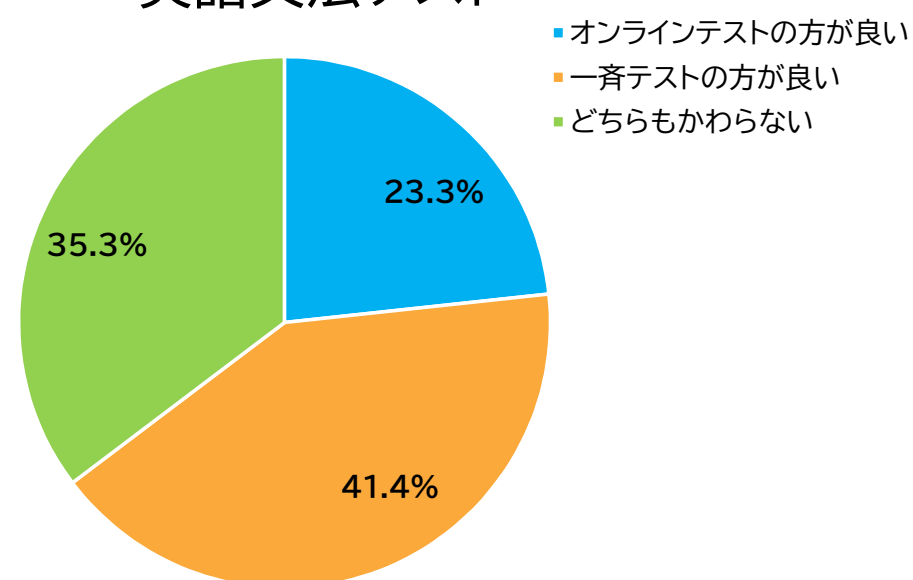
大学、教室等での一斉試験と比較して、実力が発揮できたか

英語リスニング



選択肢	割合
オンラインテストの方が良い	34.4%
一斉テストの方が良い	36.2%
どちらともかわらない	29.4%

英語文法テスト



選択肢	割合
オンラインテストの方が良い	23.3%
一斉テストの方が良い	41.4%
どちらともかわらない	35.3%

オンライン試験全体を通じて「良い」と感じた点

- ・自宅での受験だったので落ち着いて、集中して受験する事が出来た。
- ・大学に行かなくてよかったので、交通費が節約でき感染リスクも減らせた。
- ・交通機関の遅延等を、心配する必要が無かった。
- ・試験直前まで準備が出来たり、休憩時間にリラックス出来て良かった。
- ・リスニングの音量を自分で調節出来たり、イヤフォンだったので聞きやすかった。
- ・事前の通信テストがあって安心して受験する事が出来た。
- ・大勢の中だと緊張してしまうので、一人で受けられたのは良かった。
- ・面接がマスク無しで受けられて、表情を見ながら出来たのは良かった。
- ・緊急の電話対応連絡先が用意されていたので良かった。

オンライン試験全体を通して「良くなかった」と感じた点

- ・インターネット回線の関係で、声が聞こえにくかったり画面が固まったりした。
- ・ネット環境で合否が左右されてしまうのではと不安だった。
- ・パソコンに不慣れで、使い方の準備に時間が必要だった。
- ・ZOOM面接では意欲が伝わっているのか不安になった。
- ・声が聞こえにくかったりした時、聞き返すのに躊躇してしまった。
- ・やろうと思えばカンニングを出来ると感じた。
- ・目の疲労が紙の時よりも大きかった。
- ・画面上では紙に比べて試験問題が読みづらいと思った。
- ・自宅受験では外部の音(車や郵便等)が気になって集中できなかった。
- ・各問題に制限時間があつたので、自由に時間がかけられた方が良い。
- ・リスニングテストで選択肢の先読みが出来なかった。

現状と課題

大学入試が「HIGH-STAKES TEST」として認識されている現状で、特に学力テストに於いて**公平・公正**という観点でオンラインでの実施について、確実な**通信環境の確保、不正防止**をはじめ解決しなくてはならない事があり、オンライン入試実施でのメリットを生かした入試形態を模索したが、現状は留学生入試（海外からの受験）及び一部面接やプレゼンテーションに限って実施しており、他の入試は全て学内での入試に戻して実施している。

入試以外では、入学前教育の一環でIRT国語語彙テストをCBTで自宅から受験してもらい、その結果に基づき入学後の日本語ライティング指導に繋げている。

○ 今後への期待

少子化など高等教育を取り巻く状況を考えると、中堅の私立大学に於いては総合型・推薦型などの秋入試へのシフトが顕著であり、今までの学力試験に頼る入試は曲がり角を迎えている。

大学入学者選抜では大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することがより求められてくる。

今回の連携の取組みを通して、CBTの技術的な課題解決はもとより、各大学がそれぞれの持つ経験や知見を共有し、新たな大学入学者選抜の将来像を示す事が出来ればと願っている。

ご清聴ありがとうございました。

Mail: osada@kandagaigo.ac.jp